

今年度の新しい雑誌のご紹介

2023年4月から新たに受入を始めた雑誌をご紹介します。



- 2F パープルゾーン【雑誌コーナー】** 保存期間…3年
- 俳句(月刊)
 - 短歌研究(月刊)
 - ELLE DECOR(年5回刊)
 - モダンリビング(隔月刊)
 - ジャズ批評(隔月刊)
 - 数理科学(月刊)
 - 現代農業(月刊)
 - Hanako(月刊)
 - POPEYE(月刊)
 - ムー(月刊)
- 3F ブルーゾーン【アート情報支援コーナー】** 保存期間…10年
- 淡交(月刊)
 - 民藝(月刊)



当館では約500タイトルの雑誌をご用意しています。たまには、じっくりゆっくり雑誌をめくってみてはいかがでしょうか。ぜひお手に取って、お楽しみください。

おすすめします!

図書フロアスタッフの推薦本を紹介します。

『世界で一番美しいペンギン図鑑』



「飛べない鳥」の代表格であり、多くの水族館で看板を背負うペンギン。そんなペンギンの愛らしさをフルカラーで楽しめる1冊です。愛らしさだけでなく、ペンギンの進化の歴史や生態、現在の分布についても学べます。

- ◎ 水口 博也、長野 敦 編著
- ◎ 誠文堂新光社
- ◎ 2018年

7月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「東京に出会う 人とまちと物語」(～7/14)

山の手、下町、武蔵野、多摩……東京・首都圏内を舞台とする物語を、地域に焦点をあてて紹介する展示です。描かれる「人」も、舞台となる「まち」も、時代によって多様な変遷がありました。よく知っている作品も、東京の物語として読むことで、新たな発見があるかもしれません。

3F ブルーゾーン 「新しい」フランス」(～10/13) NEW!

1858年の国交樹立以降、日仏両国は様々な分野で深く影響しあってきました。交流165年目を迎える今年、「新しい」フランス」と題し、9つのテーマからフランスに関する資料を前編・後編に分けてご紹介します。ぜひお立ち寄り頂き、フランスの魅力・奥深さを感じてみてください。

展示 PICK UP

3Fグリーンゾーン

～9/15(金)

Sleeping Books

～あなたの手で目覚める一冊～

Sleeping Books

～あなたの手で目覚める一冊～

日比谷図書文化館は2011年に開館しました。開館当初に図書館に招かれた本は現在も多く存在します。今もスポットライトが当たっている本もあれば、触れられることなく、書庫でひっそり眠っている本もあります。この展示では、その眠っている本を動かしてみました。ぜひ、皆様の手で本を目覚めさせてください。



手に取られるのを待っています!

好みの項目から発掘してください。



開館当初である2011～2012年を振り返るコーナーもあります!

日比谷図書文化館の数多くの蔵書のうち、専門性の高さや時流など様々な要因で本棚に隠れている本たち。今回はそんな本の中から、開館当初に出版されたものに焦点を当てて紹介します。本棚で眠っている本を発掘すると同時に、再び手に取ってもらうきっかけとなる展示です。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

入場無料

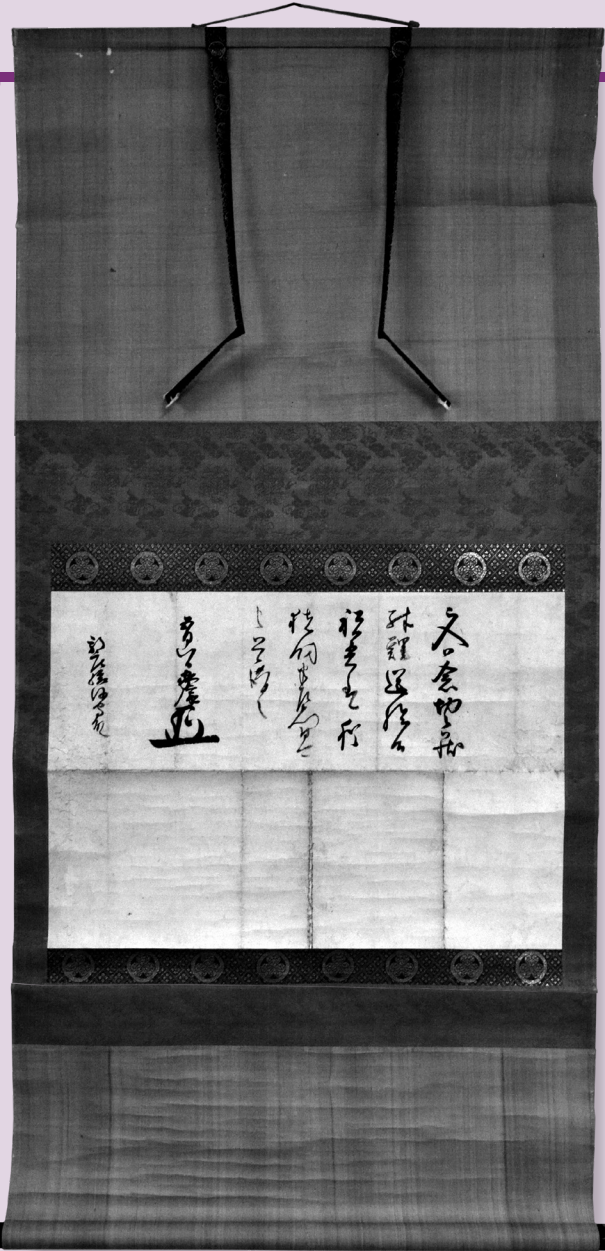
◆ 展示期間
6/20(火) ▶ 7/16(日)

◆ 展示場所
1階常設展示室 III室



家康の花押

今回展示する文書は、新たに発見された家康の書状になります。発給年は天正17年(1589)から文禄4年(1595)の間と見られ、この時代は豊臣政権下の大名のひとりでした。宛名の新庄直頼は、後に常陸国麻生藩主(現在の茨城県行方市)となった人物で、当時は家康同様豊臣秀吉に仕えていました。内容は新庄から鯉が贈られたことに対する家康のお礼で、豊臣政権下での家康と他の大名との交流を示す貴重な史料となっています。



今年NHK大河ドラマ「どうする家康」でも、徳川家康の生涯について取り上げられています。徳川家康といえば、現在の千代田区の基礎となった江戸のまちづくりを行った人物として重要な存在です。今回は初めて、千代田区所蔵の徳川家康文書を常設展示室にて公開します。

初公開 千代田区所蔵の 徳川家康文書

● 常設展示室テーマ展 ●

Music in Air ～日比谷の野外音楽堂～



日比谷公園大音楽堂(通称・野音)は今年100周年を迎えます。ところで、現在の小音楽堂が日比谷公園の野外音楽堂のはじまりであることをご存知ですか? 今回のテーマ展では収蔵資料から日本で最初の西洋式野外音楽堂として

建てられた小音楽堂を始まりとする日比谷公園の野外音楽堂の歩みを紹介します。

大音楽堂で開催された音楽以外の、おもしろい催しについても紹介します!

- 展示期間: 6月20日(火)～8月20日(日)
- 展示場所: 1階常設展示室 V室
- 入場無料

calendar

開館時間: 平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2023年 7月							2023年 8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31		
30	31												

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。



access

- 〔都営地下鉄〕
 - 三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
 - 〔東京メトロ〕
 - 丸ノ内線
 - 日比谷線
 - 「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
 - 千代田線
 - 「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分
 - JR「新橋駅」徒歩10分
- ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

7・8月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

7/5
(水)

マンガの“いま”を考える① デジタルデバイス時代の マンガ表現・マンガビジネス

講師：藤本 由香里(明治大学国際日本学部教授)

スマホ向けアプリで配信される縦スクロール漫画は、2000年代の初めに韓国で生まれ、徐々に進化をとげてきました。本講義では「縦スクロール漫画」がなぜ近年になって注目されるようになったのか、その過程をたどるとともに、マンガ表現やビジネスモデルの変化に着目し、解説します。

- 日時:7月5日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円



7/7
(金)

千代田区内ミュージアム連携企画 展覧会への入口講座 Vol.36

かいのしょうたのおと
甲斐荘楠音の知られざる全貌

—絵画・演劇・映画をまたにかけた 「京都の異才」を回顧する

講師：若山 満大(東京ステーションギャラリー学芸員)

甲斐荘楠音(1894-1978)は、大正期から昭和戦前期にかけて革新的な日本画を世に問うた「京都画壇の異才」として知られます。しかし、甲斐荘の優れた仕事は絵画だけではなく。今回の講座では、映画や演劇の世界にも越境した甲斐荘の知られざる全貌を紹介します。



甲斐荘楠音《春》1929年、メトロポリタン美術館、ニューヨーク
Purchase, Brooke Russell Astor Bequest and Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation Fund, 2019 / 2019.366

- 日時:7月7日(金)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

7/13
(木)他

日比谷オペラ塾 オペラ・あ・ら・かると(全3回)

オペラ初心者から愛好者までが楽しめる多彩なオペラの魅力を縦横に紹介します。全3回のうち、7月は『プリマ・ドンナの時代』のご著者でもある水谷彰良さんが、ベルカント全盛期に数々の伝説的なプリマ・ドンナを生み出した時代の名歌手の系譜についてお話しします。

- 日時:7月13日(木)19:00~20:30(18:30開場)

「プリマ・ドンナの時代」

講師：水谷 彰良(日本ロッシーニ協会会長)

8月10日(木)19:00~20:30(18:30開場)

「ワーグナーのヒロインたち」

講師：堀内 修(音楽評論家)

9月21日(木)19:00~20:30(18:30開場)

「ヴェネツィアのワーグナーとヴェルディ」

講師：新井 巖(フェニーチェ劇場友の会代表)

- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回60名
- 参加費:各回1500円 ※各回のお申し込みが可能です。

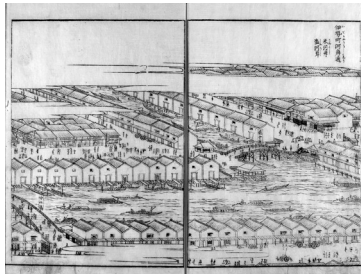
〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、**当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。**

7/21
(金)

江戸の繁栄を支えた海運と河岸 —古地図で見る湊の経済活動—

講師：鈴木 浩三(経済史家)

天下を統一した徳川家康は、諸大名に江戸の城と街づくり命じました。それは、海運によって全国から江戸に物資が集まる構造をつくり、その後の江戸の繁栄の基盤となりました。本講座では、港湾施設であり、かつ、モノの価値を創造する場でもあった河岸(かし)など、江戸の湊の経済活動についてお話しします。



伊勢町河岸通 米河岸 塩河岸
(斎藤月岑 編 長谷川雪旦 画 『江戸名所図会』/ 東都書舗 /1836年)

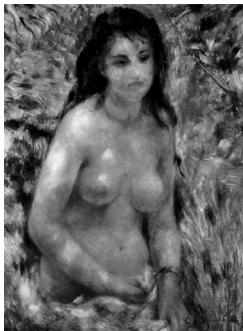
- 日時:7月21日(金)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円(千代田区民・学生500円)
- ※ 学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

7/27
(木)

名画のなかの"恋人たち" —AI時代に問われる絵画の意義 第2回「モネとルノワール—既成概念をぶち壊せ」

講師：永井 龍之介(永井画廊代表取締役)

西欧美術史上、二大革命といわれる15~16世紀イタリア・ルネサンスと19世紀フランス印象派。いずれもそれまでの既成概念を壊し、価値の大転換を起こしたことで、"人間の歴史"に燦然と刻まれています。ルネサンス以来の西欧アカデミズムに反旗を翻し、"新しい絵画"を生み出したモネとルノワールでしたが、最初は全く評価されず、売れませんでした。それが後に何故"世界的美術界を征服した"と評されるまでになったのか、時代、社会背景など紹介しながら"印象派とは"何かをお話しします。



オーギュスト・ルノワール
《陽光の中の裸婦》1876年

- 日時:7月27日(木)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円

7/28
(金)

境界 戦争体験者の証言

登壇者：大島 満吉、吉田 由美子

戦後78年が経過し、戦争体験者から直接、戦争の悲惨さを聴く機会が減っています。戦前、戦中、戦後の境界とは何なのか、生と死の境界線をさまよった、大島氏と吉田氏が戦争の悲劇を語り尽くします。今だから聞いておくべき魂をゆさぶる証言です。



大島 満吉 吉田 由美子

- 日時:7月28日(金)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円(学生500円)
- ※ 学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

7/31
(月)

作家・吉村昭の使命

講師：吉村 司(プロジェクトアドバイザー)

この夏、小説『戦艦武蔵』が82刷となる。今でも増刷を繰り返すこのヒット作は父・吉村昭を純文学路線から歴史小説路線に転換させたきっかけとなった。父の命日である7月31日。吉村昭という作家はどのような志で執筆していたのか?またどのような父親だったかを語ります。

- 日時:7月31日(月)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円



8/2
(水)

日比谷野音100周年記念 関連講座 「ロックの聖地・日比谷から辿る LOVE & PEACE+ROCK'N ROLL」

登壇者：亀田 誠治(音楽プロデューサー・ベーシスト)

立川 直樹(プロデューサー/ディレクター)

日比谷野音は2023年に100周年を迎えました。都会のオフィス街に佇む、緑深き公園に息づく唯一無二の聖地である野音はキャロルの解散コンサート、尾崎豊のステージ飛び降り、10円コンサート、RCサクセションの「PLEASE ROCK ME OUT」など数々の伝説が生まれました。数々の音楽シーンを辿りながら、野音が日本音楽史に果たした役割とこれからの100年について日本の音楽界を牽引してきた立川氏と亀田氏がお話しします。



左:立川直樹
右:亀田誠治

- 日時:8月2日(水)19:00~20:30(18:00開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円

8/4
(金)

「東京音頭」という新民謡の発見 —地域振興曲の誕生90周年—

講師：刑部 芳則(日本大学商学部教授)

2023年8月は、「東京音頭」が誕生してから90周年を迎えます。これほど都民に長く愛された音頭は珍しいです。しかし、1932(昭和7)年の「丸の内音頭」が翌年に「東京音頭」へと発展したこと、「東京音頭」を替え歌にした音頭が続出したことなどは知られていません。本講演では、「東京音頭」の誕生と影響をはじめ、その後の音頭の歴史に大きな存在となったことを紹介します。



- 日時:8月4日(金)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円

8/23
(水)

上廣・日比谷ライブラリーレクチャー 「私のチャレンジ人生」 第1回人に喜んでもらえ自分も楽しい仕事をしたい

講師：宮田 亮平(金工作家・日展理事長)

多様な分野で活躍する先駆者やチャレンジ精神あふれる人々の経験や志に学び、新しいことへ挑戦するためのヒントとなる情報を提供する講演シリーズ。第1回はイルカをモチーフにした「シュプリンゲン」や東京駅「銀の鈴」(4代目)などで作品を知られる宮田亮平氏。鍛金工芸技法の研究や後進の指導にあたりながら、創造性あふれる作品を多数制作する宮田氏がチャレンジ人生をお話しします。



(主催:公益財団法人上廣倫理財団、共催:日比谷図書文化館)

- 日時:8月23日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:500円(千代田区民・学生は無料)
- ※ 学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

特別研究室企画展示

内田嘉吉文庫に見る 港の時代—16~19世紀における歴史と役割—

明治・大正期に通信省で日本の海事行政に関する法律の整備などに尽力し、臨時横浜港設備委員、臨時神戸港設備委員も務めた内田嘉吉の旧蔵書には航海記や探検記の洋書が多く残されています。本企画ではそれの中から港に関連する資料をピックアップして紹介します。16世紀から19世紀、それぞれの港はどのように成立し、どのような役割を果たしていたのか、貴重な資料をご覧ください。



マルセイユ(フランス)
『La France maritime』/1837年

● 主な展示図書

『Atlas du Voyage de La Perouse』(1797年)

『A Missionary Voyage to the Southern Pacific Ocean』(1799年)

『La France maritime』(1837年)ほか

- 期間:2023年7月1日(土)~8月20日(日) ※休館日:7月17日(月・祝)
- 開室時間:平日10:00~20:00、土曜10:00~18:00、日曜・祝日10:00~16:00
- 会場:4階特別研究室 入場無料

I N F O R M A T I O N

日比谷で七夕★

今年も日比谷図書文化館1階ロビーに七夕の笹を飾っています。短冊もご用意していますので、ご来館の際にはお願い事を書いて笹に飾ってください。飾られた短冊は、日比谷花壇を通して、国宝に指定されている仙台の大崎八幡宮へと奉納されます。~7/7(金)まで

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのおしらせ】

千代田図書館主催 —第2回— ちよびた 落語会

落語を聞くのが初めての方でも気軽に参加できる落語会です。若手人気噺家3人による落語をぜひお楽しみください。

▶ 出演:立川志の太郎、桂竹千代、春風亭昇羊

◆ 開催日時:7月21日(金) 18:30~20:15

◆ 会場:千代田区役所1階 区民ホール

◆ 定員:60名(事前申込制・先着順、全席自由)

◆ 対象:小学生以上(未就学児の入場不可)

◆ 参加費:一律1,000円(税込)

◆ 申込方法:7月3日(月)午前10時から受付開始。図書館ホームページの「お申し込みフォーム」に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

◆ 問い合わせ:03-5211-4290(平日10:00~18:00)

春風亭昇羊

桂竹千代

立川志の太郎